

# 法政大学

## 学生生活実態調査

### 報告書

#### 2012

通学・住居

アルバイト

奨学金

悩み・健康

モラル・マナー

帰属意識

授業方法・内容

科目・履修

コミュニケーション

正課外教育

課外活動

ダブルスクール



## <目 次>

『2012 年度学生生活実態調査報告書』刊行にあたって

### 調査の概要

### 分析編

#### I 生活

- 1. 通学・住居 (Q1～Q2) . . . . . 9
- 2. アルバイト (Q3) . . . . . 14
- 3. 奨学金 (Q4～Q5) . . . . . 20
- 4. 悩み・健康 (Q6～Q10) . . . . . 25
- 5. モラル・マナー (Q11～Q12) . . . . . 33
- 6. 帰属意識 (Q13～Q14) . . . . . 38

#### II 正課教育

- 7. 授業方法・内容 (Q15～Q16) . . . . . 42
- 8. 科目・履修 (Q17～Q20) . . . . . 44
- 9. コミュニケーション (Q21) . . . . . 48

#### III 正課外教育・課外活動

- 10. 正課外教育 (Q22～Q26) . . . . . 51
- 11. 課外活動 (Q27～Q29) . . . . . 56
- 12. ダブルスクール (Q30) . . . . . 64

#### IV 大学について (Q31～Q35) . . . . . 67

## 『2012 年度学生生活実態調査報告書』刊行にあたって

本書は、2007 年度から法政大学の全学部で毎年実施している学生生活実態調査の 2012 年度の結果をとりまとめた報告書です。

近年においては、各問に対する回答にあまり大きな変化がなく、概ね安定した傾向を認めることができます。ただ、敢えて指摘するならば、回答が特定の選択肢に偏ることなく分散する傾向があるようにも感じられます。もしその通りであるとするならば、特徴のない学生が増えているということかもしれません。

それぞれに特色豊かな 3 校地に通う学生の生活実態を総覧して特色を指摘することは、そもそも無理なことを承知のうえで、総計の推移から近年における法政大学の学生像を垣間見ると概ね次のようになります。

すなわち、全体の 3 分の 2 は自宅から通い、通学時間は 1 時間未満が約 45%、自宅外の通学者については、大学や不動産業者による紹介が大宗を占める他、2 割近くは、インターネットを通じてアパート等を探している。アルバイトをしたことがある学生は 8 割ほどで、その働き先を見つけた媒体も「新聞・アルバイト求人誌を見て」から「インターネット」が首位に転じ 6 割を超えている、といった感じです。

さらに、意識を尋ねると、「学生生活上の悩み・不安」は「ない」との回答が 4 割近くに V 字回復し、その傾向を反映して「友人・異性関係」や「進路・就職」に関する「悩み・不安」の比率が低下していますが（それぞれ 2007 年の 44.1%から 37.1%と 2011 年の 77.6%から 66.2%）、この推移についてはさらに精査が必要かもしれません。また、「法政大学生のモラル・マナーの低下・欠如を感じますか？」という問に対する「感じる」という回答は、2003 年度の 85.3%から 66.6%にまで下がっています。これが本当にモラル・マナーが向上したことを反映しているのであれば喜ぶべきことですが、「低下・欠如」を感じなくなったということであれば、由々しき問題であろうかと思えます。実は、私としては、数字を素直に受け止めることができない悲しさを感じています。

他には、昨年度に続いて学生相談室のカウンセリング業務を「知っている」という回答や、学生向け窓口の対応に「満足している」という回答の割合が伸びたことが学生センターとしては嬉しい結果でした。

学生センターでは、今後も本調査を継続します。実は、本年度版には、より広く活用していただくための工夫も加えてあります。学生生活支援の基礎資料の 1 つとして、本調査がお役に立てば幸いです。

2013 年 2 月  
学生センター長 宮崎伸光